

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願ひ

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

課題名：救急受診・入院したアナフィラキシー（ショック）症例におけるクリニカルパス適応の使用経験および有用性の評価

1. 研究の対象および研究対象期間

2014年1月1日から2017年12月31日までに救急センターもしくは内科外来（呼吸器・アレルギー内科）を受診した、年齢が15歳以上のアナフィラキシー患者のうち、当施設で定めた適応基準を満たし経過観察入院のクリニカルパスが適応され、情報解析が可能であった症例と医師の判断でクリニカルパスが適応されなかった症例。

2. 研究目的・方法

【背景・目的】クリニカルパス（欧米ではクリティカルパス or ケアパス）は多職種の医療従事者が診療にあたる対象患者の情報を共有可能であり、統一した治療目標に向かってチーム医療を推進するのに大変有意義なツールである。またクリニカルパスを積極的に適応することで診療に係る費用の縮小や入院期間の短縮を期待できるとする報告もあり、検査入院や短期で終了することが可能な治療の導入に本邦でも導入が進んでいる。しかしながら、上記のように患者間のばらつきが小さい検査・治療とは異なり、治療・管理開始後に患者の病状が変化する可能性があることから、これまでにアナフィラキシーの入院加療に対してクリニカルパスを導入している医療機関は僅少である。当施設ではアナフィラキシー患者に対する初期治療後の経過観察目的で2015年12月より入院用のクリニカルパスを作成・導入した。

【方法】2014年1月から2017年12月までの計48ヶ月間に当院救急外来もしくは内科外来（呼吸器・アレルギー内科）を受診し、年齢が15歳以上のアナフィラキシー患者のうち、当施設で定めた適応基準を満たし経過観察入院のクリニカルパスが適応され、情報解析が可能であった症例と医師の判断でクリニカルパスが適応されなかった症例を調査対象とした。患者の診療録、問診票、紹介患者の場合には診療情報提供書などに記載された診療情報のうち対象患者の食習慣、生活・職業環境、既往歴、アレルギー発症時の状況、看護記録（温度板含む）などを後方視的に収集・調査・解析する。それに加えて、診断・経過観察のために施行した血液・尿検査（総IgE値、アレルギー特異的IgE値など）についても調査・解析を行う。費用対効果の評価のため、保険診療点数・DPCコードについても調査する。クリニカルパス適応患者群と非適応患者群で比較、検定を行う。

研究期間 医学部 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後・昭和大学病院病院長の研究実施許可後～ 2019年 7月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録情報、電子カルテ内の情報、紹介状（診療情報提供書）、検査データ、保険診療点数、DPCコード

4. お問い合わせ先

昭和大学医学部内科学講座呼吸器・アレルギー内科 鈴木 慎太郎 （内線 8532・PHS3109）

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：医学部 呼吸器・アレルギー内科 氏名：鈴木慎太郎（すずきしんたろう）

住所：〒142-8666 品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8532

研究責任者：昭和大学医学部内科学講座

呼吸器・アレルギー内科 講師 鈴木 慎太郎